

令和6年度第1回 岡崎市美術博物館協議会会議録

1 開催日時及び場所

令和6年7月18日（木）13:56～15:45

岡崎市美術博物館 1階会議室

2 出席委員（定数10名 欠席委員なし）

会 長	井上 瞳	（学識経験）		
副 会 長	野田 光宏	（社会教育・家庭教育）	竹平 真仁	（学校教育）
	長坂 博子	（学校教育）	山本 秀樹	（社会教育）
	太田 公典	（社会教育）	林 羊菌代	（学識経験）
	荒井 信貴	（学識経験）	菅沼 和子	（市民公募）
	三輪 哲也	（市民公募）		

3 館長及び説明のため出席した事務局職員（8名）

美術博物館特任館長	榊原 悟	社会文化部長	加藤 健一郎
美術博物館長	加藤 恭典	美術博物館副館長	大澤 一実
地域文化広場館長	亀井 実	地域文化広場副館長	三原 裕之
美術館長	倉橋 浩二	美術館副館長	鈴木 庸三

4 会議の成立

事務局より、委員10名全員が出席のため、岡崎市美術博物館管理規則第8条第2項の規定により、本日の会議は成立していることを報告した。

5 会議の内容

次第3 報告事項

（1）令和5年度 展覧会開催結果について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和5年度に実施した美術博物館、地域文化広場の展覧会について、入場者数、各種企画内容等を資料に沿って説明）

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員A＝知人から聞いた展覧会の感想等を紹介したい。まず美術博物館の「至高の紫

典雅の紅 王朝の色に挑む」は機会損失だったという声を聞いた。内容は素晴らしかったが、今大河ドラマ真っ最中なので、今年度開催できるとよかったと思う。また、「リアリズムの視線―戦後具象美術と抽象美術」は、この回で市の収蔵品が多く活用されていると聞いたので、知人に紹介したところ、興味を持って見に行ってくれた方もいたので、市の収蔵品の素晴らしさをアピールすることで、今後さらに盛り立てていくことにつながるのではないかと感じた。地域文化広場の「3D 不思議なトリック アニマルワールド」はお孫さんで行ってよかったので、次も期待していますと言われた。おそらくその方は「スイッチ あそび展」にも行ったのではないかと。子ども美術博物館のファンの裾野の広さがあると思う。お孫さんルートがあると思う。前回の議論の中で子どもたちへのアピールの話が出たが、祖父母へのアピールにより、孫を連れて来館というのもありだと思ふ。

事務局＝おじいさんとお孫さんの組み合わせで来館される方も多いと感ずる。昨今は両親が仕事で忙しいということもあるのか、おじいさんとお孫さんで展示や遊具を楽しんでいるのを見かけるので、今後そのような層の開拓も大いにあると考える。

特任館長＝「至高の紫 典雅の紅 王朝の色に挑む」の展覧会については、確かに委員がおっしゃるよう今年度開催するほうがよかったが、展覧会はそう簡単にできるものではなく、3年近く前から企画を始めるものもあることもご理解いただきたい。展覧会の最後のコーナーに昨年度のNHK大河ドラマに合わせ、家康から拝領した小袖を展示するなどの工夫は行った。

委員B＝地域文化広場のリトルアーティスト展について、第34回と第35回の目標人数と実績値が違ふのはなぜか。

事務局＝年度末は春休み期間を含むため、目標人数を1,800人としており、年度初めの期間は春休みも終わるため、目標人数を500人としている。

議 長＝支出の項目は2館とも同じか。

事務局＝美術博物館は監視・警備に係る費用は業務委託のため事業費に含んでいるが、地域文化広場は監視は非常勤職員が行っているため事業費には含んでいない。

議長＝2館の支出項目が異なるので統一したほうがいいのかと思う。監視警備の費用の掲載について一考してほしい。

委員C＝目標値に達しているのに赤字なのは気になっていた。

事務局＝今後検討します。

(2) 令和6年度 展覧会開催状況について

議 長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝(会期を終えた美術博物館、地域文化広場の展覧会の入場者数、各種企画内容、今後予定している展覧会等の内容を資料に沿って説明)

議 長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員A＝知人の感想をご紹介します。地域文化広場の「スイッチ あそび展」は周りには非常に好評だった。大人が行っても楽しかった。企画側に若い人が入っている効

果ではないか。自分が行った時も、受付の外まで子どもの歓声が聞こえて来た。目標人数に達していなくて驚いたが、行った人は大人も子どもも楽しんでいたと思うので、もう少しお客を呼び込めるとよかったかと思う。日本画へのファンレターのコーナーも面白い取り組みだと思った。

事務局＝「スイッチ あそび展」に関して、事務局としても三輪委員Aと同様に感じている。来ていただいた方には好評だったが、目標人数に達しなかったのは、展覧会名が抽象的だったので、それが良くなかったかもしれない。「スイッチ」はユニット名だったのだが、「スイッチ」で遊べると勘違いされ、「スイッチ」がどこにもなかったと言われてしまった。

委員D＝「スイッチ あそび展」は面白かった。会場は低年齢層が多かったが、来館する年齢層を少しでも上げていくには、小学校でプログラミングの授業などもやっているの、うまくリンクするとよかったと思う。大学生と触れ合う機会があればよかった。作品を1点くらい買っても、面白いのではないかと感じた。

委員E＝三河部の造形部会の会合に地域文化広場をお借りすることがあるが、参加した美術主任に地域文化広場の真山学芸員のワークショップを実施してもらったところ、大変好評だった。プロジェクションマッピングなど、今ならではの技術で興味深く、授業で取り入れられるものもあるのではと感じた。参加した市外の先生も大変気に入って毎週来館する方もいたようだ。先生方に鑑賞の機会があると、学校の教材で活用できたり、子どもたちに鑑賞を促すこともできると思う。

委員F＝会議の前に「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」を観た。とても楽しかった。教科書に載っている資料や、当時の人の生活が実感できるものが展示されておりよかった。若い人も来館しており、これから夏休みに入るの、宣言の仕方によっては多くの人に来館いただけると思う。駕籠に乗ったり実際に体験できるものもあり、子どもも大人も楽しめると思う。地域文化広場の鉄道展は昨年度ではなく、一昨年に開催されたと思うが、鉄道ファン、特に名鉄ファンの情熱はすごいのでコラボして開催するといいと思う。

委員C＝美術博物館の「ひらいて、むすんで」はタイトルだけではわかりにくかったが、実際展覧会を観ると、タイトルの意味がよくわかった。ただ、やっぱりわかりにくさも残るが。「ひらいて、むすんで」とその前の「リアリズムの視線－戦後具象美術と抽象美術」は学芸員の意欲的な企画としてはよかったと思う。今後もたくさん企画してよりよい展覧会を企画してほしい。「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」のチラシを見て思ったが、展覧会関連企画の申し込みは事前にインターネットでできるので、入場券がインターネットで予約購入できるといいと感じた。チケットが事前にインターネットで購入できると便利なので、今後の課題として検討してほしい。

事務局＝現在チケット購入は現金のみなので、工事休館中にキャッシュレス決済については、できるよう検討していきたいと思っている。

議長＝企画会社や新聞社が入っている場合は可能なのだと思う。館で実施するのはな

かなか難しいのではないか。

委員B＝「ひらいて、むすんで」は素晴らしい展覧会だった。若いお客さんが多かった印象がある。達成率を見たが、もう少しお客さんが入っているかと思ったので、驚いた。コピー機に顔を映す井口さんの作品など、初めて知ってすごくおもしろかった。また、手塚さんの作品をモチーフにしたポスター、チラシ、チケットのデザインが素晴らしかった。また、会期中開催していた毛糸のインスタレーションもインスタグラムに全体がわかる動画を上げていたので、参加した人が自分の痕跡を見届けられてよかったのではないか。図録もインタビューや作家のアンケート、学芸員の論文など読みごたえがあり、よかった。

委員G＝「QuizKnock と巡る江戸東京博物館展」は QuizKnock とタイアップすることで集客に結びついていると思う。小学校高学年から 20 代くらいの層に受けるのではないかと思った。美術博物館も地域文化広場も親が車で連れていかないと、子どもたちだけで来館するのは難しい施設だが、学校単位での団体の申し込みはどれくらいあるのか。

事務局＝美術博物館は学校単位での来館は現在はほとんどない。美術博物館としては、夏休み期間の展覧会であるため、学校単位での来館はねらっていない。コロナ以降は市のバスを確保して学校を受け入れるのは人的な負担などがあり行っておらず、学校が独自にバスを用意して来館いただくのも、費用面から難しいと考えている。

委員H＝展覧会の目標人数はどのように決めているのか。

事務局＝過去の類似の展覧会を参考にして決めるなどしているが、実際目標人数を設定するのは難しい。少ない目標では予算の獲得も難しいので、いろいろな側面を考慮しながら設定している。

委員D＝館としてはできる限り集客があったほうがいいに決まっている。駅の近くにあれば、絶対にもっと集客があると思う。立地の制約があるので、それを踏まえながらできるだけ展覧会の中身の充実を図ることが必要だと思う。

(3) 令和5年度新収蔵資料について

議長＝説明をお願いします。

事務局＝（令和5年度に購入又は寄附・寄託を受けた作品・資料について説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

委員D＝国島征二氏の作品はもっと購入するべきだと思う。本市にゆかりがある作家としてもすごい人で、豊橋市美術博物館の中庭にも国島氏の作品が設置してある。本市ゆかりの作家なのに他の市町に取られてしまっはとよくないと思うので、市としてきちんと収集すべきかと思う。また、地域文化広場で展覧会をした樋口一成氏の作品も幸田町に寄附があったと聞くので、岡崎市も購入や寄附をしてもらえるよう積極的にアピールしてもよかったのではないか。

議長＝購入の年間予算は決まっているのか。

事務局＝毎年予算計上の際に購入すべき作品と予算額を検討しているが、美術博物館

は常設スペースを持たないので、展示計画や収蔵スペースなども考慮に入れながら購入予算の検討をしている。

(4) 教育普及事業について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和5年度の教育普及事業について、資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

（意見・質問はなし）

(5) 美術館展示利用実績について

議長＝事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和5年度の美術館入場者数、展示室の稼働率等について、資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

議長＝利用実績はコロナ前と比べてどうか。

事務局＝コロナ禍に比べ伸びているが、昨年度と比較すると若干落ちている。

次第4 議事

令和7年度開催予定の展覧会について

議長＝それでは議事の令和7年度開催予定の展覧会について、事務局から説明をお願いします。

事務局＝（令和7年度開催の展覧会について、開催予定期間、内容等を資料に沿って説明）

議長＝ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。

議長＝ご意見がなければお諮りします。令和7年度に開催予定の展覧会の事務を執り進めることについて、承認してよろしいでしょうか。

（全員承認）

議長＝令和7年度開催予定の展覧会計画については、承認されました。事務局におきましては、ただいまの意見を踏まえて、準備を進められるようお願いをいたします。予定の議事は終了しましたが、「3 その他」について、何かありますか。

事務局＝特にありません。

閉会あいさつ

特任館長＝本日は貴重なご意見を頂戴し、また、令和7年度の展覧会についても承認をいただき、ありがとうございます。鋭意努力し、できるだけよい展覧会にしたいと思えます。「リアリズムの視線—戦後具象美術と抽象美術」、「ひらいて、むすんで」の展覧会をご覧いただき、市にもいい収蔵品があるのはお解りいただいたと思う。開館以来収集してきて、ようやく活用できる量になってきているのだと思う。今後

も収集活動に努めたい。収蔵品を多く持つというのは、いい展覧会を開催できる力を持つということなので、委員方のご意見や評価はありがたいと思う。また、おかざき世界子ども美術博物館は、岡崎市民が考えている以上に全国区で、収蔵品もいいものを多く持っている。委員Dのご意見も踏まえ、収蔵資料を増やしていけるといいと思う。冒頭の会長のあいさつで、岡崎市には歴史の厚みとおっしゃっていたが、その通りだと思う。蓄積された資料もあるので、今後も活用していきたい。また、部長のあいさつにあった家康顕彰の話も、ぜひ関連する資料を充実させ、常設展ができるようになるといいと思う。引き続き皆様のご意見を賜り、よい展覧会を開催していきたいと思うので、今後ともよろしく願います。

事務局＝以上で令和6年度第1回岡崎市美術博物館協議会を終了させていただきます。次回は2月に令和6年度の第2回会議を予定しておりますので、よろしく願います。本日はありがとうございました。

—以上—